

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望＝ドル円は103～104円台を中心に一進一退の動きか

[12月7日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)			11月30日～12月4日		
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	104.07	104.75(2)	103.67(3)	103.87	-0.22
ユーロ・ドル	1.1957	1.2175(3)	1.1924(30)	1.2156	+0.0193
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終 値		前週末比		
日経平均株価	26,751.24	+106.53	日本10年債利回り	0.021	-0.010
ダウ平均株価	29,969.52	+59.15	米10年債利回り	0.906	+0.069
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 7日 中国11月貿易収支
日本10月景気動向指数速報値
独10月鉱工業生産指数
カナダ11月Ivey購買部協会指数
- 8日 日本10月勤労者世帯家計調査
日本第3四半期国内総生産(GDP)2次速報、日本10月経常収支
豪第3四半期住宅価格指数
日本10月貿易収支
スイス11月雇用統計
独12月ZEW景況感指数
ユーロ圏第3四半期域内総生産(GDP)確報値
米第3四半期非農業部門労働生産性指数
- 9日 日本10月機械受注高
中国11月消費者物価指数、中国11月生産者物価指数
独10月貿易収支、独10月経常収支
カナダ銀行(BOC)政策金利
- 10日 英10月鉱工業生産指数、英10月製造業生産指数、英10月貿易収支
欧州中央銀行(ECB)政策金利
ラガルドECB総裁記者会見
米11月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数
米11月財政収支
EU首脳会議(11日まで)
- 11日 独11月消費者物価指数
米11月生産者物価指数
米12月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】FRBは一段の緩和策を打ち出す可能性が高く、ドルは売られやすい地合いが継続しそうだ。新型コロナウイルスの感染拡大は円買いにつながりやすい。こうした中、ドル円は104円割れでは買いに支えられやすい展開が見込まれ、104円台を中心とする動きが続くとみられる。

【ワクチンの実用化期待で米国株は堅調】

アザー米厚生長官はクリスマス前に新型コロナウイルスのワクチン接種が可能になる可能性があるとして述べた。米バイオ医薬品のモデルナは11月30日に新型コロナウイルスのワクチンの緊急使用許可を米食品医薬品局(FDA)へ申請した。FDAは12月17日に諮問委員会で緊急使用許可を協議する。使用が許可されれば、年内にも接種が

始まる可能性があるとしている。

なお、F D Aは1 2月10日に諮問委員会を開き、すでに申請の出ているファイザーのワクチンについて、緊急使用許可を協議する。協議の数日後に使用を承認する可能性があるとしており、承認された場合は2 4時間以内に供給できるという。なお、英国では2日にファイザーのワクチンを承認しており、来週にも接種が開始される予定という。

バイデン次期大統領は1 1月に経済閣僚を発表した。財務長官には前米連邦準備制度理事会（F R B）議長のジャネット・イエレン氏が指名された。イエレン氏の財務長官就任で、一段とF R Bとの連携が深まり、経済へはプラスの効果があるとの見方が広がっている。

2日には追加経済対策の協議に関して、進展を期待させる報道があった。米上下両院の超党派グループが9 0 8 0億ドル規模の経済対策案を公表した。一方、共和党のマコネル院内総務はその案に否定的で、独自の対策案を示している。その規模は従来の主張とほぼ変わらず、5 0 0 0億ドル規模となっている。

大規模な対策を模索している民主党のペロシ米下院議長はマコネル案には否定的な見解を示しており、合意までは紆余曲折がありそうだ。年内の合意は難しいとみられるが、米追加経済対策の協議進展期待は株価にはポジティブな要因となる。

米国株が堅調な推移を見せる中、追加経済対策への期待感もあり、通貨市場ではリスク選好のドル売りの動きに傾いている。ドルインデックスは3日に9 0 台半ばまで下落して、2 0 1 8年4月以来の安値圏まで下落している。対ユーロ、対豪ドル、対NZドル、対カナダドルではドル安の流れとなっている。

リスク選好のドル売りの局面では円も売られやすくなっており、ドル円は1 0 4 円台を中心とするもめ合いが続いてきた。3日にはドル売りが加速して、ドル円は1 0 4 円を割り込み、1 0 3 . 6 7 近辺まで一時下落した。その後は1 0 3 円台後半でのめめ合いを見せている。ドル円は上値が重いものの、方向感が出にくく、1 0 3 ~ 1 0 4 円台を中心に一進一退の動きが継続することとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、1 0 3 . 0 0 ~ 1 0 5 . 5 0 円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、7日に日本1 0月景気動向指数速報値、8日に日本1 0月勤労者世帯家計調査、日本第3 四半期国内総生産（G D P）2 次速報、日本1 0月経常収支、日本1 0月貿易収支、米第3 四半期非農業部門労働生産性指数、9日に日本1 0月機械受注高、1 0日に米1 1月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数、米1 1月財政収支、1 1日に米1 1月生産者物価指数、米1 2月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルは上昇基調が継続か】

欧州中央銀行（E C B）は1 2月10日の理事会で追加緩和に動くと思われる。ラガルド総裁は、1 1月11日の講演で1 2月の理事会で追加緩和に動く意向を示唆した。「あらゆる選択肢が議論の対象となりうるが、新型コロナウイルス向けのパンデミック緊急購入プログラム（P E P P）や長期資金供給オペ（T L T R O）の有効性が確認されている」と述べ、これらの拡充が有力との見解を示した。

ユーロドルは1日に9月1日の高値1 . 2 0 1 1を上抜いたことで、1 . 2 0 7 7 近辺まで大きく上昇した。2 ~ 3日に一段高となって1 . 2 1 7 5 前後まで上昇した。これまで上値を抑えていた1 . 2 0 近辺をしっかりと上に抜けてきたことで、テクニカル面からも上昇トレンドの継続を予想させるような動きとなっている。E C Bの追加緩和はかなり織り込まれているとみられ、実際に緩和策が打ち出されてもサプライズがないようなら、ユーロドルの上昇基調が続くこととなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1 . 1 9 0 0 ~ 1 . 2 2 5 0 ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、7日に中国1 1月貿易収支、独1 0月鉱工業生産指数、カナダ1 1月I V E Y購買部協会指数、8日豪第3 四半期住宅価格指数、

スイス 1 1 月雇用統計、独 1 2 月 Z E W 景況感指数、ユーロ圏第 3 四半期域内総生産（G D P）確報値、9 日に中国 1 1 月消費者物価指数、中国 1 1 月生産者物価指数、独 1 0 月貿易収支、独 1 0 月経常収支、カナダ銀行（B O C）政策金利、1 0 日に英 1 0 月鉱工業生産指数、英 1 0 月製造業生産指数、英 1 0 月貿易収支、欧州中央銀行（E C B）政策金利、ラガルド E C B 総裁記者会見、E U 首脳会議（1 1 日まで）、1 1 日に独 1 1 月消費者物価指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。